



平成23年度京町家まちづくりファンド改修助成 国登録有形文化財、京都を彩る建物や庭園認定

# 長谷川歴史・文化・交流の家

270余年の歴史ある農家住宅 ~洛外の生活文化を伝える~



長谷川家住宅の玄関前の中川さんご夫妻

当コーナーでは、商品の売上の一部が京町家まちづくりファンドへの寄附となる寄附付き商品を取り扱っていただいている企業の皆様方の、京町家や京都のまちづくりに対する思いをご紹介します。今回は、南区東九条に建つ農家住宅・長谷川家住宅「長谷川歴史・文化・交流の家」の中川聡七郎さん名津さんご夫妻にお話をうかがいました。

## 長谷川家住宅について

長谷川家住宅は寛保2年(1742年)築の棟札が残る農家住宅です。代々庄屋をつとめた家柄で、洛中に近い農村の農家として京都のさまざまな歴史を蓄えてきています。

戦後、一部現代風に改装されていましたが、明治時代の図面を参考に復元し、屋根や外壁改修、内部などの全面改修工事をおこないました。

往時の暮らしの様子を伝えるとともに、長谷川家に伝わってきた古文書や道具類の整理をし、展示もしています。昭和初期の京都市内の状況を示す「京都市明細図」も発見されたものの一つです。

## ファンド寄附付き商品について

禁門の変(1864年)の際、伏見・大山崎に集結した長州軍を迎え撃つため、会津藩の軍勢がこの長谷川家に滞在しました。その時の行列の様子を描いた絵巻をデザインしたのが「会津藩軍勢絵巻手ぬぐい」です。この絵巻は、名津さんの祖父にあたる長谷川家十代当主・長谷川清之進が13歳の時に描いたもので、197人も軍列が描かれています。「中昔京師地図」は16世紀頃の京都の姿をあらわした地図で、江戸時代に森幸安という学者が文献資料をもとに作成しました。「日本地図草紙」は明治6年に作られた子ども用の日本地図で、監修したのは福沢諭吉です。

これらの絵巻や地図はどれも長谷川家に伝わってきたもので、この他にも大量の古文書や歴史資料が保存されており、これらを後世に伝えなければいけないと思っています。



会津藩軍勢絵巻の原本

## 京都、景観、京町家などへの思い

今、京都の町中でも京町家がどんどん無くなっていく寂しい限りです。京町家や古い家を守るためには、大変な資金や労力が必要で、個人の力では余りにも負担が大きいと思います。古い建物は地域の貴重な財産であり、地域社会全体で守っていくことが必要です。

この辺りは、近世までは農業が盛んで、洛中に食べ物や供給する重要な役割を担っていました。長谷川家住宅では、地域の歴史を研究する会なども定期的に開いており、そうした地域の歴史の掘り起こしにつながればと思っています。その他にもコンサートやイベントなどを開催しており、地域社会の交流の場となり、伝統的な建物や景観を後世に伝えることに貢献できればと考えています。

## 京町家まちづくりファンドにご協力いただいたきっかけ

この建物を改修する際に、助成金をいただけてありがたかったので、同じように古い建物を改修して後世に伝えようとしている方の助けになればとの思いからです。前向きに頑張っている人の役に立てるファンドに協力できればと思っています。

◆寄附付き商品の内容：  
長谷川家住宅オリジナルてぬぐい「会津藩軍勢図」、中昔京師地図、日本地図草紙  
取扱場所：長谷川歴史・文化・交流の家  
京都市南区東九条東札辻町5  
☎075-606-1956  
※歴史・文化にご関心がある方は、是非、お気軽にお立ち寄りください



# 京まち工房 83

特集 京町家まちづくり  
ファンドまつり

## CONTENTS

- P1 京都市人の京都知らず
- P4 京あるき in 東京
- P5 京町家・空き家相談会
- P6 地域まちづくり・京町家の専門家紹介/ようこそ! まちセンへ
- P7 私と京都/京都市人の京都知らず 編集後記
- P8 寄附付き商品・長谷川家住宅

ニュースレター 京まち工房  
第83号 2018年6月  
編集・発行  
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

## 平成30年度賛助会員募集中!

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体のみなさま	
「京まち」ネットワーク	ぐるっとVIEW.G
アルバック 株式会社地産地消推進研究所	ISETAN
「国産の味」3Cコーディネーター 信託相談センター	ゼロホーム
フラットエージェンシー	平安建材株式会社
京都駅ビル	京町家居住支援者会議
公益財団法人 京都市観光協会	be-kyoto
ヒューマンライフサポート 都人カゴジロ	大阪ガス
一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	RITSUMEIKAN
京町家をお探しします。株式会社 八咫(ヤタ)	WISS FORUM
株式会社アーキスタイル	京都信用金庫
SAPPORO	中蔵
京都でんき	京都中央信用金庫

## 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口  
上る梅津町83番地の1 (河原町五条下る東側)  
ひと・まち交流館 京都 地下1階  
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704  
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp  
HP: http://kyoto-machisen.jp

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口  
上る梅津町83番地の1 (河原町五条下る東側)  
ひと・まち交流館 京都 地下1階

※センターへお越しの際は公共交通機関をご利用下さい。

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

# 京まち工房 83

ニュースレター  
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

## グレゴリ青山 京都人の京都知らず その1 町家の栞子編

はじめましてグレゴリ青山です(女です)京都で生まれ育ったけどー

山鉾巡行も時代祭も見に行きたことないな

こんな感じですか? と、思ったけど、京まち工房の漫画を描くにあたって聞かれました

グレゴリさんちの実家って京町家ですか?

え...京町家って、いうか...その...

単にボロい家なんですよ!

傾いている屋根 アルミサッシ(安っぽい輝き) 傾いている窓の室外機

この家は、昭和初期に建てられたものでしょうか?

これは、昭和初期に建てられたものでしょうか?

た多分それぐらいかと...

この家は、昭和初期に建てられたものでしょうか?

京町家を守れ!!

その「単にボロい家」を「まちセン」の人に

京町家カルテ\*を作成する視線で見てもうった

昭和に建てられた町家は2階の階高が高くなってきているのが多いんです

明治 昭和初期

昭和になってガラス窓が普及したこともあって

ウチの祖父が結婚した昭和10年にはすでに建ってたって聞いてます...

なるほどやはり昭和初期頃ですね

多分、京町家に住んでたなんて意識してなかった京都市人の京都知らずであった

京町家です

京町家めたいです

なんかな

ウチって

これ、京町家に多い互の特徴です

それ、この軒瓦下のラインがまっすぐ一文字になつてるでしょう

\*京町家カルテとは、(公財)京都市景観・まちづくりセンターで作成する、京町家の文化的価値や建物状態をまとめた文書のこと。京町家の保全継承に役立てていただいています。



# 京町家まちづくりファンドまつり

事業報告、記念講演、ゲストスピーチ、感謝状贈呈式、アトラクション

日時 平成30年2月10日(土)

会場 同志社校友会 新島会館本館

主催：公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター  
共催：京都市都市計画局まち再生・創造推進室  
協賛：★SAPPORO サッポロホールディングス株式会社(飲料提供)

京町家まちづくりファンドは、京都を、そして京町家を愛する皆様のご支援によって、京町家を再生し、京都らしい町並みを保全するため、平成17年に設立された基金です。

今年度は財団設立20周年の関連企画として、ファンドにご支援いただいている皆様に事業報告を行う「ファンド感謝祭」と

あわせて、京町家の改修事例を見学していただける「ファンドオープンハウス」、京町家の冊子(「京町家物語」)を発行し、「京町家まちづくりファンドまつり」と銘打ち、規模を拡大し開催しました。各催しの様子をご報告します。 ※詳細はHPにて紹介しています。

## ファンド感謝祭

当日は、100名近いご来場の皆様に、平成29年の事業報告を行うとともに、年間を通じて、大きなご支援をいただいた皆様へ感謝状を贈呈しました。また、これまで改修助成を受けられた方から、居住者の視点で京町家の魅力についてお話いただいたほか、まちセン20周年を記念して、彬子女王殿下による記念講演をおこない、京町家の保全を通し、文化を未来に伝える意義を皆様と考える機会となりました。

## 記念講演 彬子女王殿下(一般社団法人 心游舎総裁)

「伝統文化を未来に伝えるために  
～心游舎の取組と日本文化への想い～」



「心游舎では、未来を担う子どもたちが気軽に集まり、楽しみながら、生きた文化を自ら体験するワークショップに取り組んでいます。現代は、日本の伝統文化が生活から離れてきています。「文化」というものは生活の中に息づいてこそ文化です。伝統文化とは、保存するだけではなく、生活の中に取り入れて活かしていくことが、私たちが未来のためにしていくべきことだと思います。」

京町家の保全・再生・継承、そして、京町家とともに育まれた暮らしの文化の継承に共通のテーマとして、参加者の皆さんの関心も非常に高く熱心に聴いていました。

また、心游舎の活動の舞台となった太宰府天満宮参道のまちづくり事例や、地域の祭礼の事例から、地域や行事への愛着や誇りなどの想いが人を動かし、大切なものを伝える原動力になるという、伝統の継承とまちづくりのつながりについても論及されました。

## 話題提供 大場修氏(京町家まちづくりファンド委員会委員長、京都府立大学大学院教授)

京町家まちづくりファンドの意義と役割  
～「織屋建て」の京町家を巡って～



京町家には1000年の歴史があり、日本の各都市の町家に影響を与えました。京町家の多様性や多量性は、木造の都市住宅として世界的に類がなく、世界遺産的な価値を持っています。

ファンド事業は、京町家の「伝統的価値」の再生に留まりません。京町家の「現代的価値」を創生する役割も担っています。西陣地域に多い「織屋建て町家」の改修においては、大きな吹抜け空間を現代的なリビングとして活用することで、次世代に継承し得る京町家の可能性を引き出す試みがさまざまにされています。

ファンドの改修事業は、京町家の価値をさらに高める役割を着実に果たしています。

## 平成29年 御寄附いただいた皆様 皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

個人(五十音順 敬称略) 浅見正子、網野正観、魚谷繁礼、大下尚平、大場修、大前温彦、岡本秀巳、角川裕次、加味根徹也、河崎尚志、木股博一、栗山裕子、桑原尚史、志村公夫、高木貴子、田谷隆行、辻勇治、徳光都紀子、内藤卓、西村孝平、原田ミイ子、前岡照紀、宮脇和生、村井洋子、望月幸夫、安下ひろみ、吉田光一  
ご芳名の非公開希望を合わせた36名の皆様

法人・団体(五十音順 敬称略) (株)アベックス西日本、(株)井筒ハツ橋本舗、(株)伊藤園、岩井木材(株)、ココ・コーラウエスト(株)、京都青果合同(株)、京町家スイート利休、(有)鈴木モーターズ、Deepest Kyoto Tour実行委員会、西日本ビバレッジ(株)、日新電機(株)、(株)フージャースコーポレーション、(株)フラットエージェンシー、まいまい京都、(株)都ハウジング

## 感謝状贈呈式

平成29年高額寄附者の代表として、1個人、3企業の皆様に感謝状を贈呈しました。  
(個人) 西村孝平氏  
(企業) 岡本秀巳氏(株式会社都ハウジング代表取締役社長) 坂本登氏(京都青果合同株式会社 調査室室長) 杉野善彦氏(株式会社井筒ハツ橋本舗 代表取締役社長)



西村孝平氏 表彰ありがとうございます。今年もやります、3月8日は町家の日! 京町家検定も再開します。皆様よろしくお祈りします!

杉野善彦氏 感謝状を頂戴し誠にありがとうございます。ハツ橋をお買い求めいただくと京町家の保全につながりますので、今後ともどうぞよろしくお祈り申し上げます。

## ご挨拶

門川大作氏(京都市長) まちセン20周年、感慨深く、お礼とお祝いを申し上げます。単なる建物ではなく、私たち日本人が大切にしてきた暮らしの美学や生き方の哲学が連続と伝わっている京町家。日本はもとより、世界の宝であり、保存・継承のためにご尽力を賜り、またご寄附をいただいている皆様にも敬意を表します。今後共皆さんと一緒に頑張ります。



寺田一博氏(京都市会議長) 本日は誠にありがとうございます。私も、父から相続した町家を西陣に持っています。日本の宝である京町家を受け継いでいくということは非常に重要なことだと考えています。



## < ファンドオープンハウス >

実際にファンドを活用して改修された5軒の京町家の見学会を開催しました。

各家庭の季節の室礼を楽しみながら、所有者・居住者から直接、改修の経緯や住まい方の工夫などのお話をうかがうことにより、これから町家の活用・改修を考えている方や生活している方との



伏見区・小西邸



東山区・河崎邸



上京区・寺島邸(見学の様子)



上京区・谷村邸(織織り体験)



南区・伊藤邸

情報交換と交流の場になりました。

ファンド事業の成果と意義を広く発信するとともに、それぞれ特色の異なる京町家を見学することにより、京町家の多様性を味わい、生活の知恵を共有する機会になりました。

## < 京町家物語 >

ファンドオープンハウスにご協力いただいた5軒の京町家の由緒や沿革、現在の暮らしぶりを、「活用・住まい方・まちづくり」という視点を中心に一冊の本にまとめました。

改修前からどのように変わり、現在はどうに生まれ、感じておられるのかをまとめることで、改修助成事業の成果と意義を形として発信するとともに、これから町家の活用・改修を考えている方々へ次のステップとして参考となるものです。

オープンハウスの際には、公式ガイドブックとして、所有者・居住者の皆様のお話をさらに深く理解するのにも役立ちました。

※「京町家物語」は、まちセン窓口にて、1冊200円で販売中です。この本の売上は、全額、京町家まちづくりファンドへの寄附となり、京町家の再生支援に役立てられます。



## アトラクション

(立方) 若柳佑輝子氏 (長唄) 今藤小希郎氏 (三味線) 柁屋勝進良氏、柁屋禄秀氏(まちセン職員:池谷憲彦) ご来場の皆様の健康とご多幸、京町家とまちづくりの益々の発展を祈って、「七福神」「君が代松竹梅」の演目が披露されました。



## 御寄附の方法

一口1,000円から受付しております。

## 金融機関へのお振込

三菱UFJ銀行	京都支店	普通	1234110
京都中央信用金庫	本店	普通	1606485
京都銀行	本店	普通	4114655

## クレジットカード決済

京町家まちづくりファンド 検索 から御寄附いただけます (VISA、MasterCard、JCB)。



当財団窓口 現金のみ受付いたします。

## 税額控除の適用を受けることができます

当財団に対する寄附金は、公益財団法人に対する寄附として、税の減免措置を受けることができます。

税額控除と御寄附の方法について、詳しくはホームページをご覧ください。

<http://kyoto-machisen.jp/partner/detail/donation.html>



# 「京町家・空き家相談会」を開催しました

京町家や空き家を所有する皆様、あるいは京町家に居住する皆様が、京町家に関わる専門家に気軽に相談する機会として「京町家・空き家相談会」を開催いたしました。平成29年11月16日には、「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」（京町家条例）が制定され、ますます注目が集まる京町家。所有者や居住者の皆様のさまざまな疑問やお悩みに京町家等継承ネットの各分野の専門相談員がお答えしました。

## 開催概要

- 開催日 平成30年3月4日（日）
- 会場 京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム
- 開催時間 一般相談 10時～15時  
専門相談（事前予約制 各回3組）  
①10時～11時  
②11時30分～12時30分  
③14時～15時
- 対象 京町家や空き家の所有者・居住者の皆様
- 主催 京町家等継承ネット、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター
- 後援 京都市
- 相談件数 専門相談9件、一般相談7件

「老朽化した京町家に住み続けることが困難になってきた」、「京町家を保全するためにも活用を検討したい」、「大切に住み継いできた京町家を次代に引き継ぎたい」など、何らかの形で京町家を残したい、継承したいとの想いを持つ方々がご相談にお越しくださいました。一言で「京町家」と言っても、建物の規模、立地、置かれている状況や、所有者・居住者の背景は千差万別で、継承のための相談には個別の事情に応じた対応が必要になります。そのため今回の相談会の「専門相談」では、あらかじめおながいした相談内容に応じて、専門家（大工、建築士、宅建士、弁護士、司法書士、土地家屋調査士、地元金融機関、行政関係者など）に相談テーブルにお着きいただき、各分野のそれぞれの視点から助言や情報提供を行っていただきました。相談会が終了した後も引き続き経過をうかがいながら、必要に応じて専門家が現地を訪れる「専門相談」を実施するなど、きめ細やかな対応を行っています。

今年の相談会では、京町家条例に関連したご質問も多く寄せられ、京都市都市計画局まち再生・創造推進室による京都市の京町家関連施策に関する相談コーナーを設けて、皆様のご質問にお答えしました。

京町家を継承したいけれども、複雑に入り組んだ悩みを誰に相談したらよいかわからない、相談費用の心配なく話を聞いてほしい、他所で相談をきっかけに営業に悩まされた経験があるので不安…、そんな方々に安心してお越しいただけるよう、今後も相談窓口を開き続けたいと思っています。

## ? 京町家等継承ネットとは

京町家等の継承に関わる多くの団体が構成する「京町家等継承ネット」では、所有者や居住者とともに、力を合わせて京町家等の継承に取り組みます。



相談会の様子

## 専門相談員一覧(順不同、敬称略)

- 大前温彦、吉田茂家、岡部秀亮、横井照洋、山下善彦、狩野文博、田原利晃、杉江崇、城市智幸、増田啓子、岡田良子、萩本暁、松木一恭、玉村匡、浅井健、内田光人、村上毅、綿越浩、美濃智広、吉田光一、西村孝平、田中秀和、水谷英一、重野利明、山下正人  
京都市：高橋宏幸、関岡孝緒

# 京あるき in 東京 2018

京都の文化や魅力を多くの皆様にご覧いただくために東京都内各所で2月3日から3月11日まで多彩なイベントが繰り広げられました。

## 京都創生連続講座 in 東京 第1部 京町家トーク

## 講演会・相談会

### 「京都のまちなみと暮らしの文化」

- 日時 平成30年2月23日（金） 13：30～15：00
- 会場 実践女子大学 渋谷キャンパス創立120周年記念館
- 登壇者 畑 正高氏（香老舗 松栄堂 主人）  
矢ヶ崎 善太郎氏（京都市芸文継承大学大学院准教授）
- 協賛 株式会社LIXILグループ 協力 香老舗 松栄堂

基調講演に先立ち、当財団から京町家の改修等に助成される「京町家まちづくりファンド」の取組が紹介されました。

基調講演では、「老舗の主人が語る京都の魅力：ご先祖様とともに過ごす心と暮らしの文化」と題して、畑正高氏からお話をうかがいました。京都の歴史や文化とつながる、京都のまちの隠れた魅力について、家業であるお香の世界や、古今集、源氏物語などの古典文学、社会を取り巻く環境と生活文化・風俗など、多様な視点からお話いただきました。

後半は、矢ヶ崎善太郎氏をお迎えし、「京都の魅力：京都のまちなみと暮らしの文化」をテーマに畑氏との対談が行われました。お香と現代の文化のつながり、自分の価値観とは異なる世界から得られた新しい発見、看板や電線、京町家から考える京都のまちなみ、世代間の交流が伝える技や文化の継承など、京都のまちや文化に対し、現代の私たちが預かったものを次に渡していくための思いをうかがうことができました。

京都の魅力に加え、日本の文化のこれからについても考えさせられる対談となりました。



畑氏・矢ヶ崎氏、対談の様子



畑氏講演の様子

### 「そうだ、京町家に住もう」

- 日時 平成30年2月24日（土）  
講演会 13：30～15：15 相談会 15：30～17：30

- 会場 京都アカデミアフォーラム in 丸の内
- 主催 京都市
- 登壇者 永江 朗氏（フリーライター・書評家・エッセイスト）  
石田 結実氏（「上羽絵惣」 十代目）
- 司会 西村 孝平氏（株式会社八清代表取締役（相談員を兼任））
- 相談員 井上 誠二氏（京都府不動産コンサルティング協会理事長）  
岡本 秀巳氏（京都府不動産コンサルティング協会理事・相談役）

京都市主催「京町家の適切な継承に向けたイベント」の講演会・相談会が開催されました。

講演会では京都と東京の2都市で活動をしている永江朗氏から、お住まいとして京町家をリノベーションした経緯や京都での暮らしについて実感を込めてお話しいただきました。続いて京町家を社屋に持つ宝暦元年（1751年）創業で日本最古の絵具商「上羽絵惣」十代目石田結実氏に、京町家ならではの風情や、風土に培われた感性を活かしたものづくりについて語っていただきました。来場者の6割は京都への移住を検討されている方で、「いずれ京町家に住んでみたい。」「京都移住をぜひ実現したい。」というお声もあり、関心の高さが窺えました。

相談会には京町家等継承ネットの会員が相談員として対応し、京町家の所有や京都への移住を熱心に希望される方々の相談をお受けしました。



相談会



講演会





株式会社松栄堂 代表取締役社長 畑 正高

# 私と京都

## 歴史に学べる幸せを未来を考える糧にして

車を運転していて、丸太町や二条の橋の上で信号に止まると、ちょっと得をしたように感じます。鴨川の流れの向こうに北山の遠望が楽しめます。比叡山から左右に続く峰々は、一年を通じて装いを替えて、気持ちを大きくしてくれます。

「すくよかならぬ山の景色、木深く世離れてたたみなし」と源氏物語・帚木に書き伝えられたままの景色が、車窓に我がものなのです。千年昔に書かれた小説の一節が、今もそのまま私の日常にあるということに驚きを覚えます。三条蹴上の老舗ホテルの三階北側の廊下からも同じ雄大な景色が楽しめます。私は大好きです。枕草子の冒頭の名文が京都の東山の稜線を語っていることにも、同じような迫力を覚えます。

京都は、歴史の舞台として千二百年を過ごしました。特に平安期から室町期にかけて、我が国の精神文化や美意識の確立という重要な使命を担ってきたのです。そのソフトパワーの熟

成を育んだ自然景観や気候風土が、そのまま息づいているのが「私の京都」なのです。

京都は、その歴史資産があまりにも豊かで、豊かすぎる資産力が散漫になっている感じがあります。政治史ではなく文化史を念頭において今一度歴史資産を整理してみると、その流れや必然性が明確になります。そして生きた人々の意味を問い直す機会に出会えるかと思えます。資産をどれだけ流動化して今に生きる私たちが活力に変え未来に生きる糧に転じていくことができるのか、私たちが無言のうちに教えられてきた先輩世代からの知恵を思うと、世代の継承とはこのようなことではないかと考える昨今です。

世界的に見て、稀に見る不思議な文化的環境を育み続けることのできた日本。京都が日本文化史の歴史舞台であっただけに、京都に生きる私たちの責任は重いと感ずるのです。

## 京都人々の京都失らず

### 編集後記

第1回目は、マンガの作者であるグレゴリ青山さんのご実家にうかがいました。「ただの古い家」としきりにおっしゃいましたが、建物の特徴はまさに京町家！同席いただいたお母様に昔の様子をお聞きしながら、建物に残る小さな痕跡から当初の姿に想いを馳せました。建物からご家族の歴史や思い出をたどることができるのは、京町家のような古い民家ならではの面白さです。

グレゴリさんのご実家の軒瓦は、私の好きな「石持一文字」瓦。新築の建物で使われることはありませんが、古い京町家の軒先では頻りにみられる軒瓦です。すっきりとした佇まいが、庶民の美意識を映し出している…、というのは言い過ぎでしょうか。

(花崎)



最近のブームは古い着物をほどいて服や小物を作ること。端切れが出ると、ムラムラと何かを作りたくなります



著者：グレゴリ青山

漫画家、イラストレーター。1966年、京都市生まれ。壬生の地で生まれ育つ。現在は京都府亀岡市在住。京都人による京都発見本『深ぼり京都さんぽ』（集英社インターナショナル）、京都が舞台の少女漫画『薄幸日和』（小学館）、京都のガイドブック『ねうちもん京都』（KADOKAWA）など、京都関連の著書多数。

## 第10回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

# ゆっくり・じっくり・まちづくり

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い思いをもって京都のまちに関わっておられる専門家の方々をご紹介します！



今回はこの方！

たけらおか まさひろ 正康氏 (NPO法人京都景観フォーラム理事/京都府建築士会理事・まちづくり委員会委員/一級建築士事務所A・RU・KU代表)

京都工芸繊維大学工学部造形工学科卒業。建築設計事務所勤務を経て、平成17年に独立。京の三条まちづくり協議会、修徳学区、柘野学区や深草地域における景観まちづくり支援のほか、子どもたちのまちづくり学習を支援している。48歳。



景観・まちづくり大学で三条通を歩く

まちづくりに取り組むようになったのは、国際協力に関心を持ったことがきっかけです。日本では建材として安易に熱帯材が利用され、消費され、それが間接的に現地の人々の暮らしに影響を及ぼしているという現状に、何かしたい、しなければ、と考えるようになりました。

NGO(非政府組織)の活動に興味を持ち、関西NGO協議会が主催する講座で勉強を始め、スタッフとして関わり、現地へ行ったりする中で、考え方が変わってきました。海外に行って活動することも大切だけど、日本の我々が、自らの暮らしを見直すことこそが国際協力につながると思うようになり、

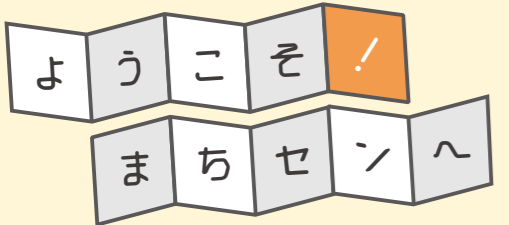
コミュニティに興味を持ち始めました。

平成10年度、京都市とまちセンによる「第1期京町家まちづくり調査」に参加しました。京町家には伝統的な生活文化、ご近所づきあいなどの習慣が残っています。そうした魅力に気づいてもらうことで、地域をエンパワメントしていきたいと考えています。建築士会のラジオ番組でまちづくりの魅力を喋ったり、7年前に創設されたNPO法人京都景観フォーラムで、まちへの関心を高めるお手伝いをしたりしています。

実は僕、路地が大好きなんです。日本だけでなく世界中の路地を歩いています。先日行った韓国・釜山には家々をカラフルなペンキで彩った路地のまちがあり、その魅力を再生していました。人の暮らしの中で、ゆっくり、じっくり形作られてきたものを大切にしながら、時にはアヴァンギャルドなものも挿入し、そこに暮らす人が、自分のものだと思うまちが形成できればと思っています。その手助けを続けたいと思っています。



広場の整備について話し合うワークショップ



視察でまちセンを訪れた方をご紹介します「ようこそ！まちセンへ」を始めます。その土地らしい魅力にあふれたお土産もご紹介いたします。



今回いただいたお土産はコチラ

研究所の名前が入った銀の皿と象のメモスタンド

まちセンには、国内外の行政機関、大学などからさまざまな方が視察にいらっやいます。平成28年度には33団体、403人の方がお越しになり、京町家の保全・再生の取組や京都の景観政策について説明を受けられました。3月8日には、タイからブラジャティボック王立研究所の視察団の26人がご訪問されました。

「京のまちかど」を視察されたタイのみなさん



視察団は公務員や民間企業の社員で構成され、公的経済(経済を活性化させるためのコミュニティづくり)をテーマにご研究をされているとのことでした。まちセンの事業について説明を受けた後、京町家の利活用に対する支援について、積極的なご質問がありました。

説明の終了後、地下1階の国宝上杉本洛中洛外図屏風(複製パネル)や、地上1階にある「京のまちかど」をご見学されたり、売上金の一部が京町家の保全・再生に使われる自動販売機で飲み物をご購入されたりしました。

タイは古い建築物などの観光資源が豊富で、多くのNPOが観光促進に関わっています。ウッティサン・タンチャイ教授によると、まちづくりに関しては法律で規制する面がまだ大きく、市民がより主体的に関わるよう、意識や環境を変えていきたいそうです。

「京都の人たちは、まちが自分たちのものだというオーナーシップを発揮しながらまちづくりをしている。まちセンで見聞きしたことをタイでも活かしたい」とお話になりました。